令和　六年度　編入学試験問題用紙【一般選考　第二次】

比較文化学部　比較文化学科

小論文

本部分については
著作権上の制約により
掲載することができません。

本部分については
著作権上の制約により
掲載することができません。

出典：多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波書店　二〇一三）
なお、一部改変したところがある。

（一）［　　ア　　］の中に入るふさわしい語を本文中より抜き出して記せ。

（二）傍線部「外国語がどれだけ理解できたのかを測定するのは最終的には無理なのかもしれない」について、本文ではなぜ「無理」であると考えられているのか。一〇〇字以内で説明しなさい。

（三）本文中の「すべる」という語をめぐる日本とドイツの捉え方の違い、また、傍線部「二つの言語に対話してもらった方が、より広くより密度の高い答えが生まれてくるのではないか」という本文の意見を踏まえ、外国語を学ぶことの意義について、あなたの考えを四〇〇字以内で述べなさい。